

杭州西湖点描

第一百五十八回
第十四輯貳回

内容

西湖を隔て杭州城市を望む……………一
西湖……………二



亞細亞大觀

水	ゆ	ら	ぐ	江	南	……………	三				
冷	泉	亭	……………	四							
雲	林	禪	寺	の	竹	林	……………	五			
西	湖	の	斷	橋	……………	六					
杭	州	城	内	の	運	河	……………	七			
日	本	租	界	……………	八						
拱	震	橋	……………	九							
運	河	よ	り	六	和	塔	を	望	む	……………	十

記事

杭州西湖のごとも

森田富義

撮影

島崎 役治

大連市山縣通り一三九

發行所 亞細亞寫真大觀社

電話②六二三五
振替穴連七一八

(毎月一回發行)

版權所有 不許複製

編輯人

大連市山縣通り一九三
青山 括夫

發行人

大連市三河町二一
島崎 役治

印刷人

大連市三河町二一
鈴木 周哉

發行所

亞細亞寫真大觀社



杭州と西湖のことども

森 田 富 義

浙江省の都城であると云ふことと共に、西湖の風景を以て世に知られてゐる杭州は、また歴史的にも有名である。

支那古蹟史によれば、『禹貢の揚州、春秋の越國、隨、唐の杭州餘杭郡、吳越の首都西府で、南宋もまたここに都して京師臨安府となへ、久しくその國都であつたのを、元に至つて杭州路と改め、明、清もこれに倣つて杭州府を置き、浙江省城として今日に至つたのである。』と記してある。

以上が杭州の史實の概要である。この地、滬杭角鐵路の最終点で鐵路を利用して上海よりの便よく、更に錢塘江對岸より寧波に通ずる鐵路がある。また、寧湘鐵道線もここを起点として、九江及び長沙に至る便がある。が、水路も亦錢塘江及び、その他の運河があり、杭州城府民の交通運輸上に利用され、爲めに商業願る殷盛を極めてゐる。日本も、馬關條約により杭州を開港せしめて、日清汽船の船が發着してゐる、然し、排日氣勢盛んで、居留地はあつても、日本人の居住する者少く、淋しいものであつた。が、今度支那事變が解決し、東洋平亞が訪れた時には、日本人の居留民も多くなり貿易上の數字も現在より遙かに増加するであらう。だと云つても、いろいろの情勢から押して、貿易上は見るべき發展は望みないかも知れないが、西湖を控へた杭州としては、遊覽者の出入は確に増加するものと思はれる。

今、杭州城の概略を記せば、錢塘江と西湖に挟まれた都市で城周は東西五支里、南北十五支里の城壁を繞らしたもので、城市内には運河があつて舟便に備へ、城外とは、湧金門と錢塘門の間が道路開鑿のため撤廢されてゐるが、その他の武林門、艮山門、慶春門、清泰門、望江門、候潮門、鳳山門、清波門等があつて城内外を通じてゐる。

西湖は、東に杭州都市を控へ、西南北の三面は山を負ふた水郷である。周回三十支里、四時碧水をたたへ、水面に三壁の山影を浮べ、清爽幽玄の氣を漲らせてゐる。西湖十景は、西湖中の湖心亭、阮公墩、退省庵、三澤印月等を始めとして、蘇堤上の蘇堤春曉、雷峯塔の夕照、南屏晚鐘、花港觀魚、蕉石鳴琴、斷橋殘雪、師公祠等々の景觀の個所は十ヶ所以上散在し、雲林寺、六和塔、天竺寺等はその冠なるものである。斯く自然人工の名所舊蹟に富む西湖には、マルコポーロが遊び、蘇東波が詩を吟じて名勝を絶賞し、後人に傳つたのも故なきことではない。また、この附近が、それだけ風景の美に富むを以て、古來支那人にして、墳墓の地として、永久に眠り度いと希望する者が多く、貧者は氣息をえんとしながら杖を曳いてこの地に斃れ、富者は暮地を求むる者が多い、それらのことを以て察するに、如何にこの景勝が優であるかが判る。上海方面より内外人の遊覽客が多いのも無理からぬことで、やがては、日本からも、文人墨客は勿論のこと、閑人の杖を曳くものが多くなるであらう。



西湖を隔てて杭州城市を望む
(杭州)

この寫眞は裏湖の裏山から蘇堤と西湖を隔て杭州城市を望んだところである。支那には何處にも江を隔て對岸の街を望むところはあるが西湖を隔て杭州を望む景色はまた格別である。拙なき筆者が説明を加へて、景觀の美を阻害するよりも、寧ろ無言でこの景を提供したい。

(印書複製を禁ず)

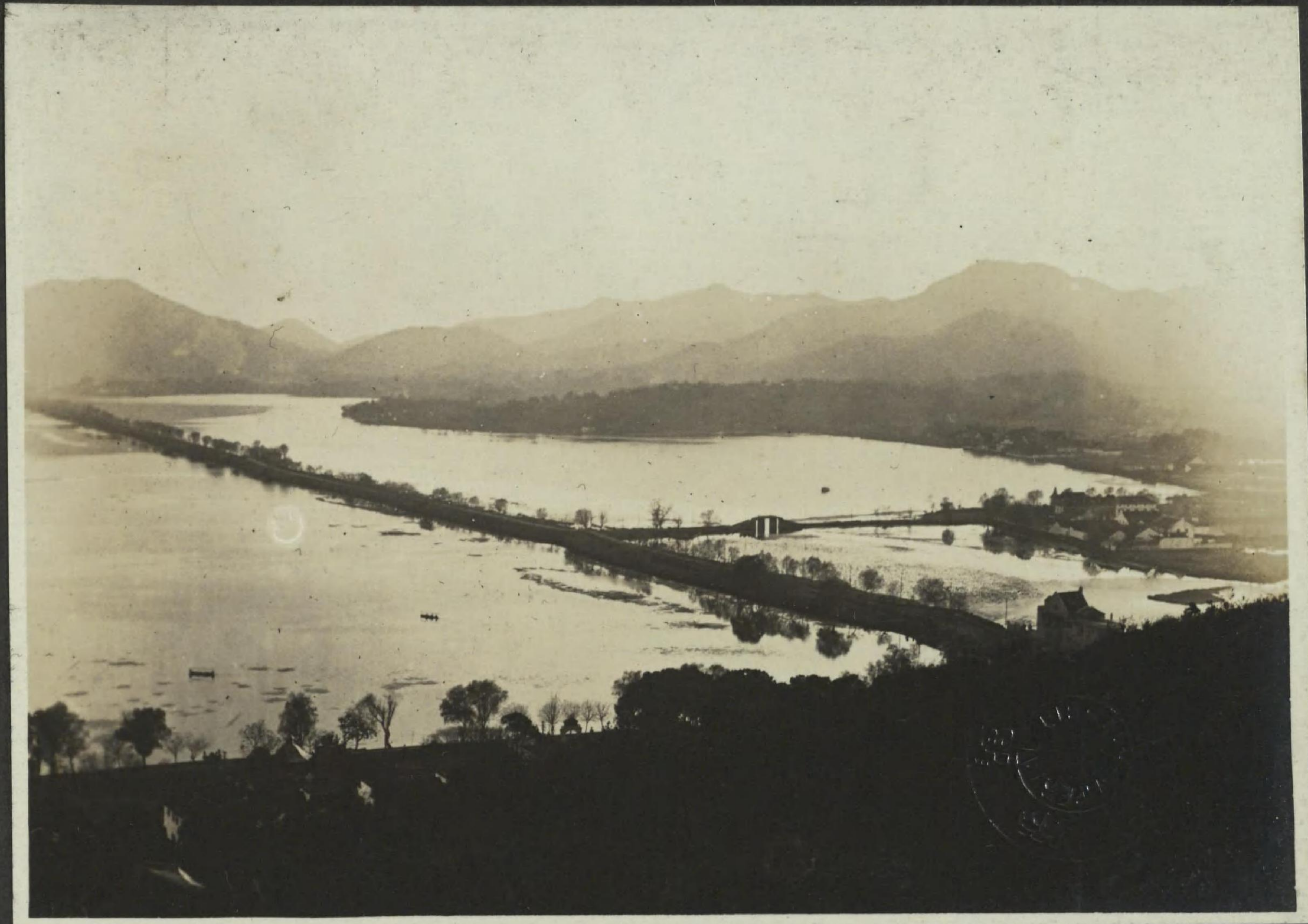
(一ノ回貳輯四十個大亞細亞)

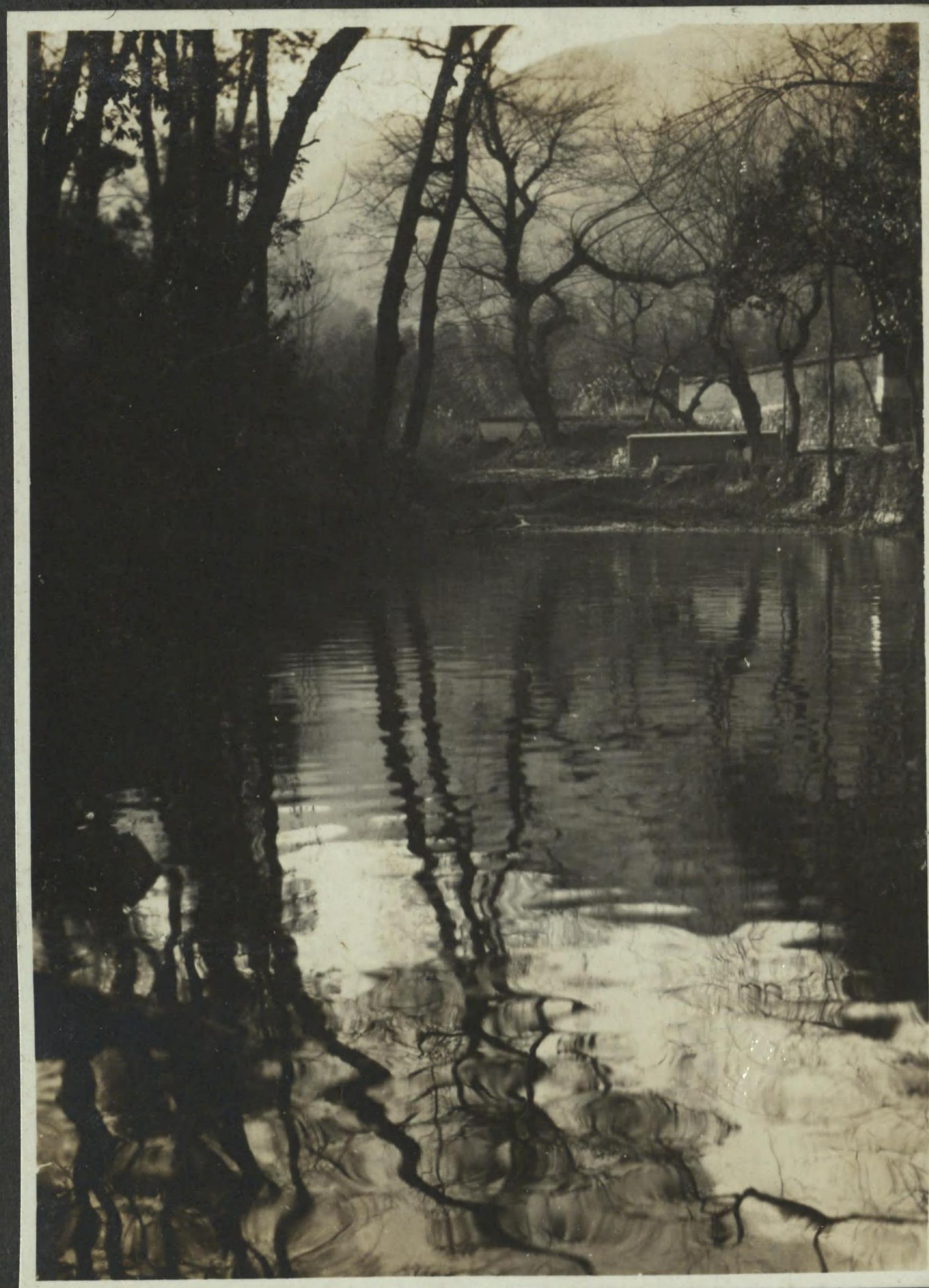
の冠なるものである。斯く自然人工の名所舊蹟に富む西湖には、マルコポーロが遊び、蘇東波が詩を吟じて名勝を絶賞し、後人に傳つたのも故なきことではない。また、この附近が、それだけ風景の美に富むを以て、古來支那人にして、墳墓の地として、永久に眠り度いと希望する者が多く、貧者は氣息を忍ん忍んとしながら杖を曳いてこの地に斃れ、富者は暮地を求むる者が多い、それらのことを以て察するに、如何にこの景勝が優であるかが判る。上海方面より内外人の遊覽客が多いのも無理からぬことで、やがては、日本からも、文人墨客は勿論のこと、閑人の杖を曳くものが多くなるであらう。

湖 西
(州 杭)

西湖は一方は杭州市に面し三方は山を負ひ、四時水は湛へ衆峰の翠影を浮べた清爽の湖である。周圍は三十里（日本里五里）あり、附近の河川は皆この湖に流入してゐる。昔から、湖の變遷多く今日でも、明武水、錢湖、石函湖、金牛湖、西子湖、明聖湖、高士湖の名がある。湖の蘇東波が湖中に長堤を築いたのが、蘇堤、三潭印月等湖中にある。湖心亭、院公墩、退省庵、三呼んでみる。湖に勝地がある。湖には土鰯と蟹を産し、又蓮があり夏は眼を樂ましめ、秋は口を喜ばし、風光絶佳なところは云ふまでもなく、支那を訪れる外人は必ず西湖の一部分を見たく、支那を訪れる外人は必ず西湖の一部分を寫眞はれる。湖の裏山から西湖の一部

(印畫の複製を禁す)





南江ぐらゆ水

(州 杭)

三寒には江南の水も雖ども凍るのである。それが、春が訪れると解氷し湖面の水が動き、寫眞の如く岸邊の楊柳の影を寫してゆらぐのである。早且山頂より靜に何ふ朝焼けの影を浮べてざら／＼光る光景はまたとないものである。楡も柳も、もう暫くすると陽氣に芽を吹いて、この世の春を満喫するであらう。

(印畫の複製を禁す)

(三ノ回貳輯四十觀大亞細亞)

湖 西

(州 杭)

ある。周圍は三十支里(日本里五里)あり、湖の變遷多く今日でも流入してゐる。昔から湖、金牛湖、西子湖、明聖湖、高士湖、錢湖、石湖、蘇東波が湖中に長堤を築いたのが、宋の蘇東波が湖中に長堤を築いたのが、堤を呼んでゐる。湖中に湖心亭、院公墩、退省庵、三澤印月等の勝地がある。湖には土耐と湖蟹を産し、又蓮があり夏は眼を樂ましめ、秋は口を喜ばし、又蓮が風光の絶佳なところは、秋は口をなく、支那を訪れる外人は必ず此處に足を曳くのである。寫眞は後湖の裏山から西湖の一部を見たところである。

(印畫の複製を禁す)

(二ノ回貳輯四十觀大亞細亞)



冷泉亭

(杭州)

杭州の西湖は、外湖と後湖、岳湖、小南
 湖からなつてゐて、有名な冷泉亭は裏湖の側
 ある雲林寺前冷泉の岸にある亭である。唐の刺
 史元嶼の創建で、そのころは水中にあつたもの
 を、宋の郡守毛友が、「水中に亭あるは明鏡の中
 に畫あるに如かず」と云つて岸に移したものが、
 今の冷泉亭である。この地風光全く佳く、當時風
 雅であつた相里君は虚白亭、韓僕射は候仙亭、
 裴棠棣は觀風亭、盧允輔は見山亭等を建てたが、
 この冷泉亭と併せて五亭と稱されてゐた。白樂
 天や蘇子瞻、王江左等の文人が好んで遊んだと
 ころで詩や文が残つてゐる。

(印畫の複製を禁ず)

(四ノ回式輯四十觀大亞細亞)

雲林禪寺は北高峰麓冷泉亭の上手にある大伽



雲林禪寺の竹林

(州 杭)

雲林禪寺は北高峰麓冷泉亭の上手にある大伽藍である。晋の咸和元年天竺の僧慧理が創建したものである。唐の宋之間がこの絶勝を愛で靈隠の詩を作ったのもこの寺である。寫眞はその雲林禪寺の上の竹林の風景であるが、竹林よりも、お寺の參道の石段の出来具合と手近に見ゆる山門の建築風は、日本のお寺に見るやうなものである。

(印畫の複製を禁す)

(五ノ回式輯四十觀大亞細亞)

冷泉亭

(州 杭)

ある雲林寺前冷泉の岸にある亭である。唐の刺史元暉の創建で、そのころは水中にあった。今に畫あるに如かず。この地風光全く佳く、當時の雅であつた相里君は盧白亭、韓僕射は候仙亭、裴棠棣は觀風亭、盧允輔は見山亭等を建てたが、この冷泉亭と併せて五亭と稱されてゐた。白樂天や蘇子瞻、开江左等の文人か好んで遊んだところや詩や文が残つてゐる。

(印畫の複製を禁す)

(四ノ回式輯四十觀大亞細亞)



西湖の断橋
(杭州)

断橋は、西湖の後湖と外湖との水路に架せられた橋である。昔から西湖十景の一つに算へられ断橋の残雪と云つて有名であるが、景色は春の残雪ばかりでなく、四季を通じて佳く文人墨客の杖を曳いたところである。

(印畫の複製を禁す)

(六ノ回貳輯四十観大亞細亞)

杭州は西湖があり、錢塘江がありして水便豊



杭州城内の運河

(州 杭)

杭州は西湖があり、錢塘江がありして水便豊かな街であるが、更に市の内外に運河が開通して水陸の便はこの上もないところである。寫眞は、市内を流れてゐる運河であつて、民船が行儀よく列んでゐるところは見ものである。兩側の街の建物か宏大で楯比してゐるのを見てもその股賑か伺はれる。

(印畫の複製を禁す)

(七ノ回貳輯四十觀大亞細亞)

湖の斷橋

(州 杭)

れ斷橋の殘雪と云つて有名であるが、景色は春の殘雪ばかりでなく、四季を通じて佳く文人墨客の杖を曳いたところである。

(印畫の複製を禁す)

(六ノ回貳輯四十觀大亞細亞)



日 本 租 界

(杭 州)

杭州に於ける日本租界は、杭州港即ち拱震橋附近にある。この地方は湖墅と稱してゐるが、貿易上の價値が乏しいのと排日氣勢が旺盛のため日本人の居住も至つて尠く各國租界に比して非常に寂しい感がある。寫真を見ても田園風景から一步も脱してゐないのは残念であるが、支那事變が解決すれば相當に繁榮するであらう。

(印畫の複製を禁ず)

(亞細亞大觀四十輯四回ノ八)

拱震橋は杭州城を圍む運河の最南端湖墅にあ



拱 震 橋

(州 杭)

拱震橋は杭州城を圍む運河の最南端湖墅にある橋である。橋だからと云つてしまへば何等珍らしいものでもないが、この橋は一名眼鏡橋の異名がある如く橋は眼鏡の形をしてゐるので有名である。だが、それよりも近代人に名の知れてゐることは、各國租界に近く、西湖、富陽、拱震橋を繋ぐバスが開通し、杭州、西湖を觀光する旅人の足溜さなつてゐることである。

(印畫の複製を禁す)

(九ノ回貳輯四十觀大亞細亞)

界 租 本 日

(州 杭)

貿易上の價値が乏しいのと排日氣勢が旺盛のため日本人の居住も至つて尠く各國租界に比して非常に寂しい感がある。寫真を見ても田園風景から一步も脱してゐないのは残念であるが、支那事變が解決すれば相當に繁榮するであらう。

(印畫の複製を禁す)

(八ノ回貳輯四十觀大亞細亞)

運河よりの六和塔を望む

(杭州州)

民船寫眞は錢塘門附近の運河の光景である。この運河は、隋朝の文帝が開闢したもので、長江と黄河を繋ぐ重要な交通路である。塔は、隋朝の文帝が建てたもので、現在は修復中である。この塔は、隋朝の文帝が建てたもので、現在は修復中である。

(印畫の複製を禁ず)

(十ノ回貳番四十觀大亞細亞)

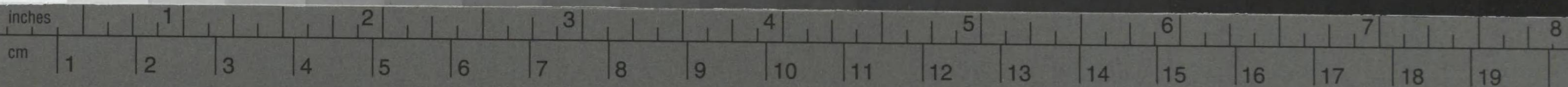


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

